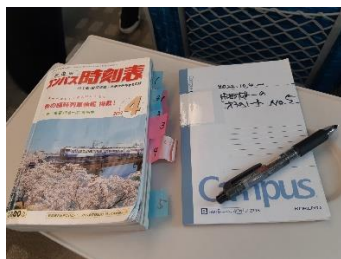


飛田雄一エッセイ

# 列車、のるかそるか





●

1970年代初めのころ、国鉄労働組合が4日間のストライキをした。むくげの会メンバーは、「国労連帯マーシャン会」を開いた。そのころ、よくやっていたのだ。

堀内稔さんの下宿で2泊3日連帯し、まだストが続いていたので、歩いて鹿嶋節子さん宅まで行って続けた。「むくげの会麻雀正史」があるのでその記録が残っているかもしれない。むくげマーシャンは「掛けもせずに徹夜する子どもマーシャン」と揶揄されていた。したがって、記録がでてきても清算の必要はない。

省線から国鉄になったのが1951年。私が1歳のときだ。初めての東京行は、小学2年のとき。姉と東京の親戚宅に夏休みの間、預けられたのだ。当時、神戸教会付属の石井幼稚園内にわが家があり、その建て替えがあった。夏休み40日東京にいた。

神戸駅から出発した。指定された座席に行くと別の知らない人が座っている。切符を見せるとその人は「きみたちのまちがい」だと。困っていると車掌がきて、その人が間違っていたことを証明してくれた。うれしかった。

●

当時は、米原までは電気、そこで蒸気機関車に切り替える。その間に名物の米原そばを食べた。米原を出発してすぐにトンネルに入った。煙がドバーと入ってくる。ゴホゴホ。「トン

ネルに入る前に窓を閉めるんだ」という隣の席の人が閉めてくれた。

東京まで当時は 10 時間？ ぐらいかかった。ホームには東京の祖父、叔母がきてくれていた。ほっとした。



東京での 40 日間。さいしょ、東京弁に困った。鬼ごっこをするときに「よして」をいうと相手がポカン。東京弁で、よしては、「止めて」。神戸弁では「仲間に入れて」だ。

石井幼稚園の工事が終わり、無事神戸に戻ってすぐに学校が始まった。ほぼ東京弁を使いこなしていた私は、みんなに笑われた。また、すぐ神戸弁にもどった。私は神戸市生まれ、その後、7 回引っ越ししたがすべて神戸市内。私は「標準神戸弁話者」である。



時代は下って、大学生時代。在韓被爆者孫振斗さんの手帳裁判にかかわった。2 か月 1 回程度、福岡の裁判所にでかけた。支援グループからは片道の交通費しか支給されない。そしてときどき「キセル乗車」をした。

「キセル」は喫煙具の「煙管（きせる）」が由来。たばこは現在、刻んだ葉を紙で巻いたものが一般的だが、昔は煙管を使って吸うのが主流。煙管は細い棒状で内部が空洞になっており、棒の一端にある「雁首（がんくび）」に刻みたばこを詰めて火をつけ、もう一端の「吸い口」から煙を吸います。／

通常、両端にある雁首と吸い口は金属を使用。そのあいだの「羅宇（らう）」と呼ばれる部分は、竹など金属以外の素材です。／こうした煙管の構造が、不正乗車と結びつきました。」（<https://trafficnews.jp/post/82596> 2024.9. 6 閲覧）。要するに、最初と最後の切符はあるが、中間部分の切符がないのだ。



失敗談もある。京都からの阪急電車、阪急六甲ででるとき、まちがって京都からの切符を渡してしまった。声をかけられた。逃げた。逃げおおせたが、その後しばらくその改札を通りにくかった。



新幹線のキセル。すごいつわものがある。車掌が来たら、すっと立ち上がって車掌に軽く会釈してトイレに行った。すごい。

神戸から東京にいったとき、東京駅をどう出るのが問題になる。当時は、迎えの人が2人分の入場券を買ってホームまで来てくれた。ある時期から東京駅入場の時にいれるパンチの形が時間によって変わった。朝のパンチで夕方出ようとするとバレた、らしい。裏技<その1>2枚の入場券をもって、持ったまま駅員にパンチをいれてもらう。ふむ。裏技<その2>トイレで（どこでもいいが）、カミソリで同じ形のパンチを自分で入れる。聞いた話だが、そのとき失敗して入場券に

血まみれになったとか。



キセルの達人は、故向井孝さん。ベ平連の先輩で、知る人ぞ知る有名なアナキスト。ガリ版が上手で、私はいつも師と仰いでいた。新幹線の古い切符を収集していた。そして、消しゴムで日付を消して訂正するのだ。そのため東京駅の少し先まで切符を買って途中下車するように指示もあった。

私は、向井さんに改定後の切符を提供してもらったこともある。自分で、改訂する技量はなかった。



私の究極のキセル術を披露する。いまや時効だからいいだろう。全体に安全だ。

普通に正規の切符を東京まで買う。入場券を買うなどして、切符は「さら」のままにしておく。途中で検察がきたら、あきらめるか、先の友人のように車掌とすれ違う勇気がなければトイレで読んでも読んで長時間がんばる。でも、検札にあったら、正直に見せてハンコをおしてもらおう。そして、それでその回は失敗だ。正規料金で乗車となる。

検札がこずに東京駅まで行けたら、その無傷の切符を残して「払い戻し」する。自動車で来たとか、飛行機で来たとか適当に。神戸までもどって「行けなくなった」とでも言って。OK。

その無傷の切符を残す方法、絶対安全だ。出迎えは不要だ。

東京駅で新幹線から在来線に乗り換えるとき、「切符（乗車券）がでてきます。かならずお持ちください」とアナウンスが何度も流れていた。そう、その切符をとり忘れ、いざ新宿で降りようとして切符がないという人がけっこういるようだ。

私は新宿で、関西弁で、「なぜか東京駅でなくなってしまったんです」、「そうですか、申し訳ありませんが東京新宿間の普通乗車料金を払ってくださいますか」、「はあ」。そして無事、駅からである。キセルの話が長くなってしまった。むかし、このようなネタを売って漫画にしたらもうかるのではないかと考えたことがある。でも、バレて、反社会的行為で非難されても困るのでやめた。



時代はすぎて、青春 18 きっぷの旅だ。安心快適だ。私はひとりで 10 時間も汽車に乗っていてもあきない。中島みゆきなどの音楽、桂三枝などの落語、オカリナ用のカラオケなどなど使用のウオークマン（ほんとは KENWOOD）にたくさん入っている。本もときどきは読む。

神戸ー長野県伊那、伊那ー新潟、神戸ー小淵沢、神戸ー高崎などなど行った。青春 18 きっぷの旅エッセイもいくつか書いた。読んでみたい人は、連絡ください。

18 きっぷは、ディスカウントチケット屋で 5 枚でなくても買える。この間、2 枚だけ使って 3 枚分をそこに売ったらいい値だった。1 枚だけ残ってもけっこういい値で売れる。

JRジパング倶楽部もよく利用する。「のぞみ」に追い越されてイライラするという人には向かないが、私はOKだ。その倶楽部、「逆ジェンダーギャップ」がある。男性は60歳、女性は55歳からOK（今もそうかな）。カップルならどちらかが会員となればカップル会員となれる。私は、連れ合いのおかげで早くからこの倶楽部のメンバーになった。

先日、東京まで切符を購入するとちょうど1万円。安い。みどりの窓口さんが、神戸ー東京より、西明石ー東京にすると遠距離割引がついて安くなりますと教えてくれた。忘れていた。そうした。

そうして1万円となったのだ。うれしい。以前、新神戸駅から東京に向かったとき、朝早いのに習慣で缶ビールを買ってしまった。周りの目が、すこし変だった。



六甲道ー住吉の切符で、六甲道ー加古川ー谷川ー尼崎ー住吉と合法的に行くことができる。桜のシーズンの加古川線はその方法で満員だそう。加古川線ではもうひとつ改札があるが、この「遠回り派」であることを言う通してくれる。これは、大阪圏、東京圏などのJR都市圏のみ可能だ。

そして、もうひとつICOCAで、六甲道ー住吉。六甲道から今度は、六甲道ー姫路ー福知山ー尼崎を回って住吉でおりる。OKだ。これは、尊敬する鉄道マニア「溝口駅長」に教えてもらった。こちらの方はまだトライしていない。やってみた



い。かんがえただけで、ワクワクする。溝口駅長は、このマニュアル本を作っておられる。無料だが、駅長にアクセスして許可を得ることが必要だ。



一昨年（2022年）学生センターを退職してから時間ができた。にわか「鉄ちゃん」の私は「乗り鉄」。中島みゆきを聴きながら、列車に乗る。





---

飛田雄一エッセイ  
列車、のるかそるか

---

2024年10月20日発行  
執筆・編集・印刷・発行 飛田雄一（ひだ ゆういち）  
〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-3-18-205  
e-mail hida@ksyc.jp

---